

研究組織

研究代表者：小林 倫代（独立行政法人国立特殊教育総合研究所 総括主任研究官）

研究分担者：久保山茂樹（独立行政法人国立特殊教育総合研究所 主任研究官）

研究協力者：伊藤 由美（独立行政法人国立特殊教育総合研究所 心理療法士）

阿邊みどり（福島県 保育園 園長）

堅田 雅子（山口県 NPO法人 事務局長）

齊藤 優子（福岡県 発達ルーム 相談員）

清水 英子（横浜市 療育センター ケースワーカー）

杉山 濱子（静岡県 子育て支援センター センター長）

坪井 龍彦（北海道 幼稚園 教諭）

中里真利子（群馬県 公立小学校ことばの教室 教諭）

中谷久實子（富山県 子育て支援センター アドバイザー）

研究期間

平成15年度～平成17年度

交付決定額（配分額）

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合計
平成15年度	1,400	0	1,400
平成16年度	1,200	0	1,200
平成17年度	1,100	0	1,100
総計	3,700	0	3,700

研究発表

(1) 口頭発表等

- ・小林倫代・久保山茂樹・伊藤由美：障害のある子を養育している保護者の実態(1)－「養育者の生活スタイル調査」の概要と基礎的資料－、日本特殊教育学会第42回大会、2004.9.
- ・久保山茂樹・小林倫代・伊藤由美：障害のある子を養育している保護者の実態(2)－子育て中の悩みと相談相手－、日本特殊教育学会第42回大会、2004.9.
- ・伊藤由美・小林倫代・久保山茂樹：障害のある子を養育している保護者の実態(3)－保護者が日常感じている思い－、日本特殊教育学会第42回大会、2004.9.
- ・小林倫代・久保山茂樹・伊藤由美：障害のある子を養育しながら就労している保護者(1)－就労の実態と子育てとの両立の課題－、日本発達心理学会第16回大会、2005.3.
- ・伊藤由美・久保山茂樹・小林倫代：障害のある子を養育しながら就労している保護者(2)－就労していない保護者の悩みや思いとの比較－、日本発達心理学会第16回大会、2005.3.
- ・小林倫代・久保山茂樹・伊藤由美：障害児を抱えて就労している保護者へのインタビュー調査

(1) -『就労に関するインタビュー調査』の概要と基本データ-、日本特殊教育学会第43回大会、2005.9.

- ・久保山茂樹・小林倫代・伊藤由美：障害児を抱えて就労している保護者へのインタビュー調査(2)
- 仕事への意識 -、日本特殊教育学会第43回大会、2005.9.
- ・伊藤由美・久保山茂樹・小林倫代：障害児を抱えて就労している保護者へのインタビュー調査(3)
- 悩みとサポート -、日本特殊教育学会第43回大会、2005.9.

研究の趣旨及び目的

1. 何を明らかにしようとしたのか

本研究では、障害乳幼児を抱えて就労している母親に視点をあて、

- ①母親の生活スタイル、
- ②障害乳幼児を育てていく上でのストレス、
- ③必要な教育的サポート について明らかにする。

そのため障害乳幼児を育てている母親に対してアンケート調査及び個別のインタビュー調査を実施し、詳細な情報を収集する。さらに地域による実状の違いを調査し、これらの結果を比較・検討することにより、障害乳幼児を抱える母親に対する支援として、地域等の特色を生かしながらどのような支援体制をとっていくことが必要であるかを提言することが目的である。

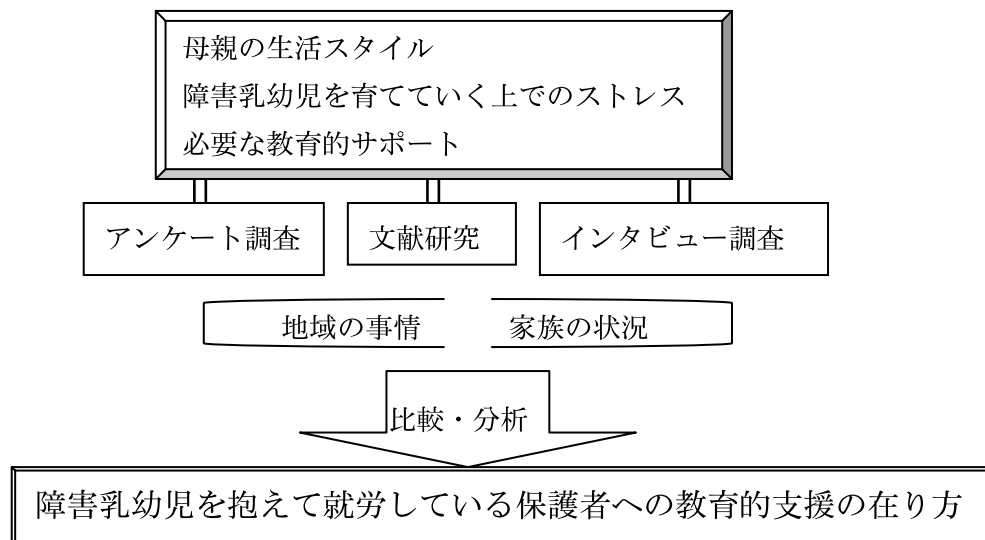
2. 本研究の意義

障害乳幼児を育てている保護者には、精神的・環境的・物理的な支援が必要である。障害児を育てている保護者、特に母親のストレス研究や支援の研究はこれまでも様々な研究が行われてきている。また、共働きの家庭に対する育児支援という視点からも調査は行われている。しかし、就労して障害乳幼児を育てている母親のデータを詳細に調べている調査研究は見当たらない。

障害乳幼児を育てることと母親が就労を継続することの二つを継続して行うには、周囲の理解と協力が不可欠であり、これらの支援のあり方は、家族や地域の特色によっても異なっている。就労している保護者から、育児の協力や支援をどのように得ているのかの詳細な情報を得ることで、各地域等の特色を生かした地域における支援体制の充実に向けた提言を行いたい。

研究全体の構造

本研究は、下図のように「母親の生活スタイル」「障害乳幼児を育てていく上でのストレス」「必要な教育的サポート」について、アンケート調査、インタビュー調査、文献研究を行い、地域の事情や家族の状況を加味し、それらを比較・分析することで障害乳幼児を抱えて就労している保護者への教育的支援のあり方を検討する。



研究の経緯

